

「1728心Air Blown WTC®」の販売開始

多心一括融着接続が可能な間欠固定型光ファイバリボン SWR® を適用した細径高密度型光ファイバケーブルWTC® のラインナップに、新たに「1728心 Air Blown WTC®」を加え、販売を開始しました。

近年、クラウド需要の増加に伴ってデータセンタの建設が増え、データセンタ間およびデータセンタ内の光ファイバネットワーク構築には当社SWR®/WTC®を含め、多くの光ファイバケーブルが使われてきました。近年では、生成AIの学習や推論に伴う膨大な計算処理を行うAIデータセンタの建設が進んでいます。急激に増加する通信量に対応するため、より多くの光ファイバを短時間に布設することが必要となり、施工時間の短縮を可能とする空気圧送布設工法で布設可能な光ファイバケーブルの多心化・細径化の要求が非常に高まっています。

こうした要求に応えるべく、当社は1728心Air Blown WTC®をリリースしました。Air Blown WTC®で最も多心であった864心に対して2倍の実装ファイバ心数を実現しています。864心で

培った設計技術を活かし、ケーブル寸法を高度に最適化することで、同一心数のOSPケーブルと比較しても細径・軽量でありながら、耐座屈性など、空気圧送布設に必要な機械特性を確保しています。

内径20mmのマイクロダクトを適用した圧送テストトラックにて、全長1,000mの距離を完走しました。

当社は、1728心Air Blown WTC®により、今後もますます多くの光ファイバ実装を必要とするデータセンタにおいて、より経済的かつ効率的な光ファイバネットワーク網の構築を可能にします。

* SWR® (Spider Web Ribbon®)、WTC® (Wrapping Tube Cable®)は、当社の登録商標です。

製品ウェブサイト：
Air Blown WTC™ 48 - 1728F

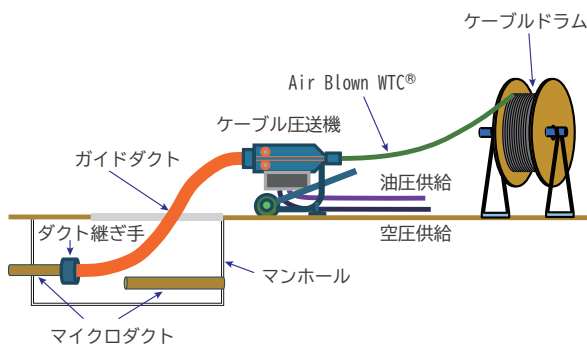


■ 製品仕様

	従来品		新製品
	1728心 OSP WTC®	864心 Air Blown WTC®	1728心 Air Blown WTC®
断面構造図			
布設方法	引張	空気圧送	空気圧送
ファイバ径	200 μm	200 μm	200 μm
ケーブル外径*	19 mm	11 mm	16 mm
ケーブル重量*	265 kg/km	95 kg/km	190 kg/km
適用ダクト内径	—	13,14 mm	20 mm

* 概算値

■ 空気圧送方式の概略図



■ SDGs17 目標に該当するポイント

従来品の2倍となる1728心の光ファイバを実装し、これまでに培った高度なケーブル設計技術により、優れた機械特性と圧送性能の両立を実現しています。圧送布設によって多くの光ファイバを短時間で効率的に布設することを可能とし、AIデータセンタを始め、今後もより多くの光ファイバを必要とするデータセンタネットワークのスムーズな構築に貢献します。



✉ 光ケーブル事業部：fjk.srrwtc.contact@jp.fujikura.com

新型多心光ファイバ融着接続機の販売開始

当社は、2026年4月から新型多心光ファイバ融着接続機「100R」の販売を開始しました。

「100R」は、単心光ファイバから間欠固定型光ファイバリボン(SWR®)を含む最大16心までの光ファイバリボンを融着接続可能です。様々な技術を搭載し、特に細径高密度化および超多心化が進むデータセンタや次世代通信インフラの多心光ファイバケーブル施工において、融着接続の作業効率をさらに向上させます。

光ファイバ融着接続機「100R」には、「光ファイバ自動整列機能(AUTO FIBER FIT™)」を搭載しました。光ファイバをセットした際に、高精度で軸合わせをするためのV溝に載らなかった光ファイバを整列させる機能で、これにより光ファイバのセットのやり直しを減らし、作業時間を短縮します。

さらに融着接続前に左右の光ファイバ端面間隔を自動で均一化する「端面間隔補正機能」も初搭載しました。この機能により、従来機と比較して接続損失の低減を実現しています。

また、接続作業手順を説明する「SPLICE COACH™機能」を搭載

* SWR® (Spider Web Ribbon®)、AUTO FIBER FIT™、SPLICE COACH™、ACTIVE FUSION CONTROL TECHNOLOGY™、ACTIVE BLADE MANAGEMENT TECHNOLOGY™は、当社の登録商標または商標です。

*1 スマートフォンアプリ「Splice+」：フジクラ製光ファイバ融着接続機の工具用ユーティリティアプリで、スマートフォンにインストールすると、融着接続データやファイバカッタの刃の使用回数を確認できるほか、工具の加熱温度の設定変更が可能になる無料アプリケーション。

*2 ACTIVE FUSION CONTROL TECHNOLOGY™：光ファイバ融着接続前の切断端面状態や放電時の光ファイバ熱発光強度を分析し、リアルタイムで放電制御を行う機能。

*3 ACTIVE BLADE MANAGEMENT TECHNOLOGY™：光ファイバ融着接続機が光ファイバカッタ切断刃の状態を監視し、切断刃の摩耗を検知すると無線通信で光ファイバカッタの切断刃を自動回転する機能。

し、非熟練者でもスムーズな作業が可能です。GPS機能も搭載しており、接続検査結果を接続位置情報とともに記録し、施工管理の効率とトレーサビリティを向上させます。これらの情報は、スマートフォンアプリ「Splice+」*1を使用することで、スマートフォンへのダウンロードが可能です。

従来機に搭載されている、風防自動開閉機能、放電条件を自動制御する”ACTIVE FUSION CONTROL TECHNOLOGY™”*2、光ファイバカッタの切断刃を無線で管理する”ACTIVE BLADE MANAGEMENT TECHNOLOGY™”*3も搭載し、安定した低損失接続を実現します。

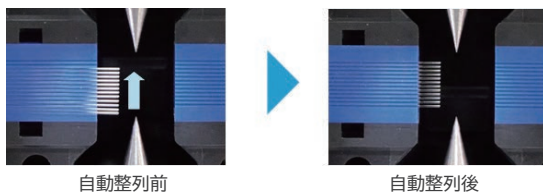
当社は今後も先進的な製品開発を通じ、通信インフラの高度化とデジタル社会の実現に貢献していきます。

製品ウェブサイト：
多心光ファイバ融着接続機 100R シリーズ

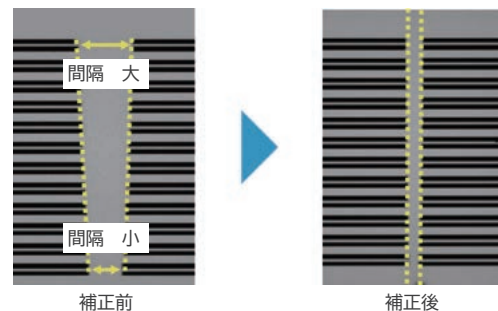


多心光ファイバ融着接続機「100R」

■ 新搭載「光ファイバ自動整列機能」(AUTO FIBER FIT™)



■ 新搭載「端面間隔補正機能」



■SDGs17 目標に該当するポイント

当社は今後も先進的な製品開発を通じ、通信インフラの高度化とデジタル社会の実現に貢献していきます。



✉ 精密機器事業部：optfsm@jp.fujikura.com

JECA FAIR 2026 (第74回電設工業展)出展のご案内

フジクラ・ダイヤケーブルと西日本電線は、「新時代を見に行こう 未来へつなげる電設技術」をテーマに開催されるJECA FAIR 2026に出展します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

第74回電設工業展
JECA FAIR 2026



日時
2026年5月27日(水)～29日(金)
10:00～17:00
初日は10:30～17:00、最終日は10:00～16:30

場所
東京ビッグサイト 東1・2・3ホール
フジクラ・ダイヤケーブルブース：東1ホール1-89
西日本電線ブース：東1ホール1-61

フジクラ・ダイヤケーブル

2025年に新製品としてリリースし、好評をいただいている「耐水性高圧耐火ケーブル 6600V NH-FP(WP)-T」や、スキルレス化を実現した「自動直流漏れ電流測定器 ADC-10」(共同開発品)を展示し、災害時の安全確保や保全業務の効率化に貢献する技術を紹介いたします。

また、可とう性を向上させた低圧CVケーブルを参考展示し、従来の低圧CVケーブルよりも曲げやすい特性を体感いただけます。そのほか、高圧・特別高圧ケーブル、通信ケーブル、計測器など、電設技術の基盤を支える製品を多数展示しますので、当日は実際に製品に触れて、性能や用途をご確認いただけます。

可とう性を向上させた低圧CVケーブル



耐水性高圧耐火ケーブル



自動直流漏れ電流測定器



業界初！遮水構造を有した高圧耐火ケーブル！

☒ (株)フジクラ・ダイヤケーブル： <https://www.fujikura-dia.co.jp/contact/>

西日本電線

各種インフラ構築に多くご使用いただいている当社製品群の中から、現場作業の省力化や材料費の削減および環境負荷低減

に貢献する製品を、サンプル品の展示や動画放映で紹介いたします。

アルミCVTケーブル



銅より軽量で安価。施工の省力化や防犯性向上にも貢献。

垂直幹線用アルミ導体分岐付ケーブル



アルミ幹線の分岐付きケーブル。省力化とコスト低減に貢献。

電動型防護管挿入機



従来の油圧式を電動化し、省力化と安全性向上を実現した工具。

ニシチューブ



可とう性と弾力性に優れ、用途無限大の収縮チューブ。

屋内配線用ユニットケーブル



住宅内電気配線の回路結線・絶縁処理をユニット化し、現場施工の効率化に貢献。

☒ 西日本電線(株)： <https://www.nnd.co.jp>

■SDGs17 目標に該当するポイント

フジクラ・ダイヤケーブルの製品は、エネルギーの安定供給や社会インフラ整備、防災設備の強靱化・安全性向上など、持続可能な社会の実現に貢献します。また、インフラ整備へ多く採用いただく西日本電線の製品は、省エネ省施工を推進し、環境に優しい社会づくりに貢献します。



「3D-VC（ベーパーチャンバー）の開発」にて 日本ヒートパイプ協会技術賞を受賞

当社は日本ヒートパイプ協会より技術賞を受賞しました。本賞は、独創的なヒートパイプ技術やその応用機器を通じて、エネルギー効率および機器性能の向上に大きく貢献した個人・団体に贈られる賞です。

データセンタにおけるCPU・GPUの高性能化・高密度化に伴い、従来の発熱対策であるヒートパイプ式ヒートシンク（HP-HS）は熱性能の限界を迎えつつあり、より放熱能力の高い空冷冷却ユニットが切望されています。これに対し当社は、ベーパーチャンバーとヒートパイプを一体化させ、立体的な冷却設計を可能にする空冷用3D-VCを開発しました。

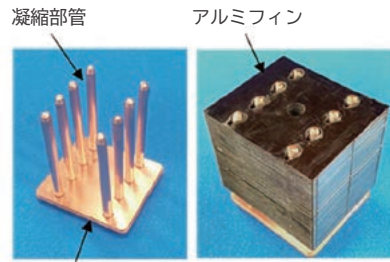
今回の受賞では、当社が長年開発を行ってきたヒートパイプ技術を応用し、効率的に放熱が可能となる内部ウィック構造を適用することで、内部に封入された作動液と蒸気の流れを最適化し、従来の空冷技術では対応ができない発熱体の空冷を実現したことが評価されました。

最大700Wまでの発熱体を冷却できるほか、空冷ユニットの効率向上によって発熱体の温度を抑制し、デバイスの信頼性向上やシステム全体の省エネ化に寄与します。

当社は今後もCPU・GPUの進化に伴う高度な熱対策ニーズに対応するため、研究開発および製品提供を行ってまいります。

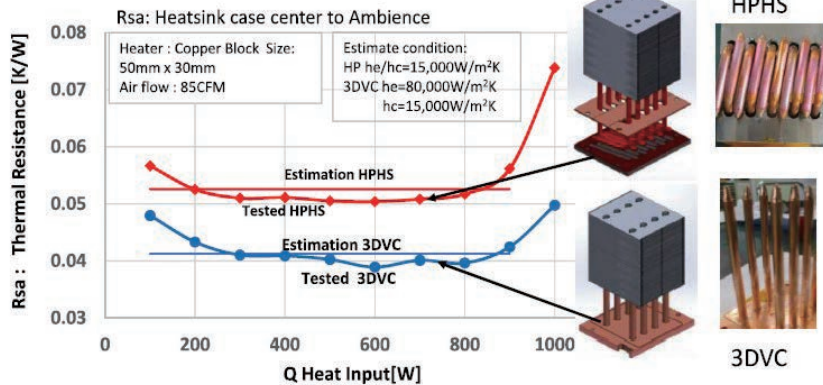


受賞した熱ソリューション部萩野春俊氏



凝縮部管 アルミフィン
ベーパーチャンバーベース
3D-VC(ベーパーチャンバー)

■ 3D-VCとHP-HSの熱性能比較



■ SDGs17 目標に該当するポイント

冷却ユニットの高性能化を通して環境に優しい次世代データセンタの発展に貢献します。



☒ 電子部品事業部：netsu-info@jp.fujikura.com

Fujikura 株式会社フジクラ Fujikura Ltd.

“つなぐ”テクノロジー™ 製品ニュース No.511 / 発行：2026年5月

編集兼発行責任者：山田 由美

〒135-8512 東京都江東区木場1-5-1 <https://www.fujikura.co.jp>

■ 本号に関するお問合せ 広報グループ wwwadmin@jp.fujikura.com

UD
FONT

見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

